

令和5年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月16日実施)	総合評価(3月31日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 国際教育を推進し、質の高い英語教育と多様な言語や文化を学ぶことにより、豊かな世界観を身に付け、国際社会の課題を認識し、問題解決能力を発揮してグローバルリーダーとして活躍できる人材の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科横断型のカリキュラムマネジメントを実践する。 総合的な探究の時間のあり方を研究する。 	<ul style="list-style-type: none"> 他教科や国際バカロレアコースにおける授業方法等を学校内に留めず県内外の高校に共有する方略について検討を始める。 探究学習活動の発表の場を増やすこと等を通して、継続的に問題解決能力を身に付ける指導計画を構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科または全体での振り返りで、授業改善がみられたか。生徒による授業評価の結果で、充実した学びができたか。 探究学習活動を効率的に指導及び評価できる方法を作成できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 公開研究授業を通して国際バカロレアコースの授業を広く参観する機会を設け、研究協議を通して授業改善を行った。 探究学習の発表をSRは2回に増やし、PRは発表人数を増やすことでクラス内発表の充実を図り、互いの問いや論文を批判的に検証する機会を充実させた。 	<ul style="list-style-type: none"> 国際科において他教科の授業見学については、組織的に行われていない状況であり、引き続き効果的な推進のあり方について検討する必要がある。 探究学習活動において、本校の育成すべき生徒像を認識した指導方法を3年間継続して行うための体制づくりをより推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 第二外国語の選択については、難しいことは承知しているが、入学した後、少し体験できてから決められるとよい。 第二外国語について、2、3年の第二外国語の履修率に注目している。 報告から、Y I Sとしてのポリシーを感じた。指導が行き届いている。 公開研究授業は、大変よい取組であるので、引き続きお願いする。 	<ul style="list-style-type: none"> 公開研究授業において、国際科と国際バカロレアコースの授業を公開し、研究協議の時間についても十分確保した。また、TOK(知の理論)の展示についても他校に周知し実施した。校内においても、他教科の授業の参観等が増加し授業改善につながったが、組織的に推進できていない。 探究活動において、自らの在り方や興味・関心を基に問いを深め、課題の発見や問題を解決する授業展開を確立することができた。課題はより効率的に行うことと、学校全体で共有していくことである。 	<ul style="list-style-type: none"> 2つの教育課程間を含む教科横断的なカリキュラム・マネジメントを推進し、他教科の授業参観等についても引き続き機会の充実を図る。 総合的な探究の時間を核としたカリキュラム・マネジメントの視点から課題解決能力の育成を目指し、年間を通じて探究に必要な諸能力の育成を校内授業研究のテーマとする。各教科でコンピテンシーを育成する場面を授業設計し、探究活動に資する能力の育成をより充実させる。
2 生徒指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> 多様で柔軟な生徒支援体制及び相談体制の確立を図り、規範意識を身に付けさせるとともに、生徒の自己理解と相互理解を深めるきめ細かな指導・支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒を取り巻く個別・全体的な状況の把握に努めるとともに職員間での情報共有を行い、生徒・保護者が相談しやすい教育相談体制の構築を行う。 自主自立につながる生徒支援体制を確立する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各年次や保健室、SCやSSWとの連携・情報交換を行い、生徒の状況の早期把握に努める。教育相談や心の悩みの相談についての情報提供を適切に行う。 生徒の自主的な活動が、組織全体の動きを見通した形で運営できるよう指導助言を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 心の悩みを抱える生徒が増えている中、生徒の状況や変容について迅速に気づき、職員間での情報共有をもとに適切な対応ができたか(振り返り) 生徒の主体的な取組による行事運営を支援することができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 各年次からの情報共有が早い段階で行われ、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーへ繋げることができた。 生徒会執行部を中心に行事運営を実施することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育相談コーディネーターを中心とした支援体制を確立する。 かながわサポートドックの活用について整理する。 情報を共有するための時間を確保する。 生徒の自主性については、生徒のみならず職員と連携しながら行えるように取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 文化祭ポスターが素晴らしい。行ってみたいという問い合わせが昨日もあった。 人生100年時代において、高校時代に何をするか、自分で自分の学び方を探す時期である。部活の地域移行あたりから、スポーツの在り方が変わってきている。この学校の生徒は恵まれていると感じる。 SNSのトラブルは対応が難しい面があるが、引き続きご指導をお願いする。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス等感染症の5類への変更により、球技大会や文化祭等の学校行事において、更に生徒の自主的な活動を支援することができた。 教員とスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーが頻りに情報交換を行い、生徒や家庭が抱えている悩みを把握し、改善へと導いた。 かながわサポートドックを活用し、新たに生徒とスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーをつなげることが出来たが、より効果的且つ組織的な活用方法について検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 行事などを通じて、生徒の自主性を尊重しつつ、「自由と責任の両立」を指導し、自主自律の精神の育成を援助する。 教育相談コーディネーターを中心に、教員間で生徒情報を共有し、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとも共同し、かながわサポートドックも活用しながら、生徒が安心安全な学校生活を送ることが出来る環境を整備する。その際に非常勤講師等にも確実に情報を共有できる体制を構築する。
3 進路指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> 海外を視野に入れた各生徒の進路希望を把握し、その実現に向け、学習意欲を高め、幅広い学力の習得と定着を図るための授業実践に取り組む。 生きる力の育成を目指し、自主的に将来の進路や職業について 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒自らが学力を把握し、目標設定ができるように指導する。 生徒の様々な進路希望に対応した、説明会やワークショップを実施し、進路意識の啓発に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で活動が制限されていたが、これが緩和されたことに鑑みた国内及び海外大学への進学に向けたロードマップを作成し、3年間の見通しのある進路指導を行う。 カレッジカウンセラーを2名に増員し、これ 	<ul style="list-style-type: none"> ガイダンスルームの資料やチューター制など、さまざまな進路支援体制を生徒自身が積極的に活用しているか。 大学が掲げるアドミッションポリシー及び学部・学科の特徴、キャリア目標を把握し、生 	<ul style="list-style-type: none"> ガイダンスルームの利用については、毎日、3年次生を中心に、資料活用や自学自習で利用された。 チューター制は、多くの生徒ではないが、相談等の対応がなされた。 進路説明会を各年次で生徒・保護 	<ul style="list-style-type: none"> コロナでの空白があったにもかかわらず海外進学の数字が上がっているのはなぜか。 4年間の学校教育目標は興味深く思っている。生きる力、人生設計など、どのようにキャリアを形成していくのか、指導をしてもらいたい。 海外進学の行き先として、北欧も選択肢として検討するとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 海外を視野に入れた各生徒の進路希望を把握し、その実現に向け、生徒・保護者対象の進路説明会を各年次で実施した。 模擬試験を計画的に実施し、生徒の進路意識の高揚と学力の把握を実現させた。 生きる力の育成を目指し、自主的に将来の進路や職業について意識できるよう、卒業生を招いて講演会を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年次の進路行事を再検討し、大学研究の機会を計画的に設定する。 卒業生の活用を積極的に行い、在校生のロールモデルとして、講演等の機会をさらに設定する。 海外進学において、英語圏以外でも生徒が興味関心を持っている国や地域の情報を伝えることができるよう、リサーチを積極的に行う。 	

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月16日実施)	総合評価(3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
		て深く学び、人生設計ができる資質能力を育む。		まで以上に海外進学に必要な情報を生徒が主体的に入手、活用できるよう支援する。	徒自身のキャリア意識と結びつけることができているか。	者を対象に実施し、国内・海外の大学受験に対応できるよう、指導を実施することができた。	打ち出し、各種進路行事を点検・改善していく。		<ul style="list-style-type: none"> ・学期末に、自己を振り返る機会を設け、反省と改善の場とした。 ・1年次の進路行事を再検討し、大学研究の機会を計画的に設定することが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学期末や学期途中において、キャリアプランについて、考えをめぐらす機会を追求する。
4	地域等との協働	<ul style="list-style-type: none"> ・社会奉仕と環境問題について重点的に取り組み、生徒が主体的に関わりながら、地域に開かれた学校づくりを行うとともに、地域貢献・国際貢献ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・広報活動を通して、地域に開かれた学校づくりを実践する。 ・高大連携の活動を通じて、地域貢献・国際貢献に関する意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・限定配信のYouTube等を活用した動画を導入する等、学校ホームページのさらなる充実化を図り、これまでに以上に学校の取組に関する情報を掲載するなど、広報活動を強化する。 ・高大連携協定校である東京外語大学や清泉女子大学と更なる連携の強化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校説明会およびYIS英語スピーチコンテスト等において、地域の中学生および保護者に本校の取組について理解を進めることができたか。 ・高大連携協定校の体験授業等を通じて、地域貢献・国際貢献に関する意識が高められたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は学校説明会開会前に吹奏楽部による生演奏、閉会後には委員会生徒による校内見学ツアーを企画したところ、参加者には概ね好評だった。 ・今年度も東京外語大学の体験授業、地域の防災訓練等を通じて地域貢献・国際貢献に関する意識を高めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校説明会のプログラムを精査し、生徒の活動成果が発表できるような場をより多く設け、本校の魅力をさらに中学生や保護者に伝えていく。 ・様々な行事を通じて生徒の意識を高めることができたが、次年度以降周知の仕方を工夫し、より多くの生徒が参加し体験できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との共同防災訓練は意義深い取組である。 ・部活動の生徒さんにお祭りにきていただき感謝している。 ・消防団の訓練を側道でやらせてもらっていることに感謝申し上げる。 ・連合大池、山王台町内会との調整について学校には世話になった。お祭りの際、国際高校の生徒の演技は、素晴らしかった。今後は、きちんと町内会の方でも要項の整理をしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は合計11回の学校説明会や全公立展、公私合同説明会・相談会の他にも学習塾や中学校での個別説明会を実施し、年間を通じて本校の取組みや魅力を発信することができた。さらに説明会の中で生徒が活躍できる場を設け、生徒の活動の成果を中学生や保護者に見ていただくことができた。 ・説明会の中で流している動画が現状と合っていない箇所がいくつかあるので、新たに撮影編集の必要がある。 ・国際貢献や地域貢献に関するイベントでは事前の周知の方法に課題があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・説明会の中で使用している動画や写真の撮影、編集を行い、本校の魅力や強みを丁寧に分かりやすくPRしていく。 ・国際貢献や地域貢献に関するイベントがある際には地域連携委員の生徒に限らず、事前に学校全体に周知をし、多くの参加者を募る。
5	学校管理 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークライフバランスに配慮した教員の働き方改革を推進する。生徒の安全のために教育環境を整備し、併せて事故・不祥事防止に努める。 ・生徒の安全のために教育環境を整備し、併せて事故・不祥事防止に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークライフバランスを考慮したうえで、校内のさまざまなしくみを整備し、皆が働きやすい環境を整える。 ・不祥事防止を全校的な取組として徹底していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT環境が強化されたことから、今後はICTの活用による業務の簡素化(資料等の印刷業務を削減する)等を行う。 ・不祥事防止会議では昨年度以上に具体的な内容を提示し情報の伝達に努めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境委員会の活動により、校内美化が進んだか。ICT環境の整備が進んだか。 ・不祥事の事例共有によって、自らの問題として認識し、徹底した取組ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内における教育環境の整備や職員研修の実施等は、職員の働きやすさの促進や生徒が安心安全に学校生活を送るための事故防止など、教員・生徒の日々の生活を支援することにつながった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・管理運営の業務は多岐に渡る。今年度は業務の洗い出しを行うことができたものの、業務が職員個人についていることが課題として挙げられる。誰でも業務を遂行できるよう業務の見える化をより行う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・英検等の資格試験等について個人受験と団体受験では費用が異なる。学校として、団体受験を検討してほしい ・保護者が先生の考えを伺う機会が少ない。保護者は情報提供を望んでいる。子どもたちは、自分たちで伝えたい情報しか親に伝えない。先生方の頑張り、生徒のために考えてくださっていることを保護者のみなさんに伝えたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・不祥事防止とICT環境の整備が4年間の目標として挙げられているが、実際の管理運営の業務は多岐に渡る。防災訓練、防災備蓄品の管理、校内清掃、職員研修の実施、学校行事の運営、私費の会計処理等、職員の業務を下支えし、間接的に生徒・職員の教育環境の改善に努めている。 ・今年度、業務の洗い出しを行うことができた。次年度以降、人についた業務の見直しと、業務を持続可能とすることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・業務内容別に年間に行う業務を電子データとして作成し使用するフォルダの整理をすることで、グループ員が誰でもその情報を共有できるようにすることに努める。